

## 第3回新市将来構想策定小委員会

# 議 事 録

# 第3回新市将来構想策定小委員会会議録

## 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成15年5月16日(金) 午後6時30分
- ・場 所 長岡市役所大会議室

## 2 会議出席委員の氏名

豊口 協	二澤 和夫	山本 俊一	山谷 一郎
佐々木保男	熊倉 幸男	米持 昭次	坂牧 宇一郎
長谷川 孝	朝日 由香	村上 雅紀	北村 公
池田 守明	石黒 貞夫	小池 進	高野 徳義
野田 幹男			

以上 17名

## 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 長岡地域任意合併協議会

### 事務局（北谷）

皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより長岡地域任意合併協議会第3回新市将来構想策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日の小委員会は委員全員のご出席をいただいておりますので、小委員会規程により会議が成立していることをご報告いたします。

次に、本日の議事に係る資料の確認をいただきたいと思います。事前に配付したものの、また本日追加したものがおりますので、ご確認をお願いいたします。本日の会議資料として会議次第、資料1-1、資料1-2、資料2、資料3を配付させていただきました。資料の方は、皆さんお揃いでしょうか。よろしいでしょうか。今回は第3回目でございます。今までに2回この小委員会を開催させていただいたんですが、過去2回はご協議いただく材料もなく、ほとんどが我々事務局の今後の事務作業の進め方等の説明で終わり、皆様方のご質問も我々の事務局に対するご質問がほとんどだったように思います。

委員各位にも大変欲求不満が溜まっていたんでないかと思いますが、今回の小委員会では有識者ヒアリングの結果等も席上に配付させていただいておりますので、ご議論いただく材料が揃っておると考えます。有識者ヒアリングの結果なども踏まえて、各委員からは今後のまちづくりに対する建設的な、前向きなご意見をいただけるものと今日は期待しておりますので、よろしく願い申し上げます。

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきたいと思います。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はお近くのマイクをお使われませうようお願い申し上げます。

それでは、議題に入らせていただきます。この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

### 委員長（豊口 協）

それでは、第3回の協議会、これからの司会をさせていただきます。よろしくお願いいたします。今日は、お手元にお配りしてございますけども、報告事項が3件ございます。この報告をいただきまして、その後将来のイメージについてご意見を頂戴していくと、こういう考えでございます。よろしくお願いいたします。

それでは、事務局の方から報告事項の1、地域アンケート調査進捗状況につきましてお願いいたします。

### 事務局（竹見）

合併事務局の竹見と申します。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

では、資料ナンバーの1-1と1-2でご説明をさせていただきます。まず、資料ナンバー1-1を1枚おめくりください。まず、1ページ目でございますけれども、地域アンケート調査実施概要という

ことで、こちらに記載させていただいています。資料ナンバーの1 2の方は実際のアンケート調査票でして、これは事前に郵送でお配りしております。

まず、(1)が調査目的です。地域の総意としての一般住民の意向を把握するという事です。

(2)は調査方法ということで、郵送調査ということです。

(3)が対象者及びサンプル数ということで、前回の小委員会でご説明させていただきましたように、有効回答数を3,500といたしまして、発送数を7,000発送いたしております。こちらの下の方が各市町村別のサンプル配布数となっております。

(4)が実施経過ということでございますけれども、発送を4月16日に7,000名分郵送をいたしました。

記入期間を2週間設けまして、途中礼状を兼ねた督促状を4月25日に郵送しまして、投函期限を4月30日ということでアンケートの方をお願いしました。投函期限は4月30日でありましたが、5月の連休を過ぎても回収といたしますか、どんどんこちらの方に戻ってきましたんで、回収期間を延長し、出来るだけ多くの方々からの意向を反映したいということで、5月9日をもって最終の締め切りといたしております。

(5)は調査回収結果なんですけど、中間段階ですが、平成15年5月1日現在の回収数として3,278票で、回収率は46.8%で、約50%となっております。それから最終の5月9日現在ですが、回収数がこちらに書いてございますように4,327票ということで、当初の目標3,500を大幅に上回りました。回収率が61.8%ということで、私どもの方で全国30地区でのアンケート回収率を調査したんですけど、そちらの平均が47%であり、それと比較すると割と高い回収率だったと思われまます。多くの住民の皆様方から多大なるご協力いただいたということで大変よかったと思えます。

それでは、本日の資料なんですけど、5月1日の一応投函期限といたしますか、そちらの回収で一旦区切った集計を出しております。最終報告につきましては、次回の小委員会でご説明させていただきますが、今日は5月1日現在の集計ということで結果の報告をさせていただきますが、以後はコンサルタントの方からご説明をさせていただきますのでよろしく申し上げます。

コンサルタント(岡村)

建設技術研究所・U F J 総研共同体の私岡村でございます。座って説明をさせていただきます。資料のページ数も大分ありますので、できるだけポイントのところがわかるように説明をさせていただきます。

まず、2ページを開いていただきたいのですが、これは集計の総数に対してどういうふうに8市町村の回収がされたかという内訳を書いておりますが、ポイントとしては右下のところには現在の皆さん市町村に何年ぐらい住んでいるかということで、10年から19年が10%、20年から29年が19%、30年以上が58%と、30年以上6割ぐらいの方が長くこの地域に住んでおられるということがわかるかと思えます。その下でございますが、家族構成でいいますと、親子で住んでいる方が大体半分ぐらい、45%ぐらいおりますが、親子3代で住んでいる方も3割ぐらいと、かなり多いんだということがわかるかと思えます。

このページの左側を訂正させていただきます。左の下の職業の欄で、下から六つ目になりますが、「その他」とありますが、正確にはここは「その他有職者」と、職を持つ方、団体職員とか、そういう方が入りますが、その「有職者」という字を、恐縮ですが、入れていただきたいと思います。

次の3ページにまいります。ここでは地域への愛着、満足度、期待を聞いております。三つの結果が出ておりますが、一番上ですが、愛着や誇りはどうでしょうかということを行いました。大いにあると少しはある、この二つを足しますと74%、4分の3は愛着や誇りを持っているということが結果として出ました。

真ん中の行政サービスに満足していますかということに対しては、これは若干意見が分かれました、満足、やや満足が37%、やや不満、大変不満が23%、幾つか多少分かれた結果が出ました。

さらに、まちのあり方などもっとよくなる可能性がありますかということに対しては、十分ある、よくなる可能性があるという二つを足しますと、7割の方がそのようにお答えになっております。

次の4ページです。これは、合併に対する期待と不安ということを知っております。結果としましては、上に3行載っておりますが、まず期待について、これは組織の効率化などで行政経費を削減すると。それから、斬新なまちづくりや行政サービスを実施すると、こういう項目について大いに期待をされております。

下の合併に際し、不安に思うことですが、三つほどありますが、住民の声が行政に届きにくくなるのではないかと。それから、市町村の伝統や特色が失われていくのではないかと。また、中心部だけが栄えて、周辺部が寂れてしまうのではないかと、そのような意見が多くを占めておりました。

次の5ページにまいります。市町村合併に対する基本認識を聞いております。左側が肯定的な意見、右側がノーということになりますが、意見としては余り偏らずに、どちらの意見もあったというのが現状でございます。ただ、項目で下の二つ、市町村規模は大きい方がよいか、小さい方がよいか、それから一番下の雇用や住環境改善が期待できるか、懸念するかということに対しては、わからないとか、どちらとも言えないというふうにお答えになった方がかなりおられまして、意見についての考えがまだ決めかねているというのが実情じゃないかと思われまます。

次の6ページにまいります。個別行政テーマの現状満足度と今後の重要度ということで、その1ということで聞いております。ちょっと細かいグラフでございますが、このグラフの見方は、上の線が今後の重要度、下の折れ線が現状の満足度です。重要度と満足度が一致していれば、この線が重なるわけなんです。実際には今後の重要度の方が上に行っているということは、現状ではまだ満足していないけれども、今後は重要だと思われる項目が全体として占めているのではないかと。この上下の差が大きいほど課題が大きいということになります。

次の7ページをごらんいただきますと、この多い、少ないを四つの枠で整理しておりますが、左の上の赤いところ、これが現状の弱みはあるけれども、重要性が高いという欄で、右側の現状の強みがあって、かつ重要性が高いという欄、あと下はそれぞれ重要性が高くないという欄に分けられます。この左

の上に注目することができると思いますが、例えば上から読んでいきますと、商店街の活性化などの商業振興、それから地場産業振興や企業誘致などによる製造業の振興、そして地域医療体制の整備、充実、高度化、その辺の数を見ますと、課題度と書いてある欄が数字が30とか20とかになりまして、これは重要度の認識は高いんですけども、現状の評価がまだ低いという項目に当たるかと思いますが。この差が少ないものがあります。右の下などにも今度マイナスというのがありますが、右下の緑色の欄ですが、ここでは重要度は現状の認識より低くなっているものが多いかと思われます。

次の8ページでございます。地域の特性の現状認識と今後のありたい姿ということで、ここでも現状認識と今後のありたい地域というのを二つセットで聞いております。それぞれの分けたグラフについては次の9ページと10ページに載っておりますが、8ページのところで黒の棒グラフと白いグラフでその二つを重ねております。やはり今後ありたい姿が横に長く伸びているところは、現状は当てはまっていけないけども、今後ありたいと。逆に、黒い線が長く伸びている項は、現状は当てはまっているけれども、今後ありたいということが余り強くないと、そういうふうに見てとれるかと思えます。

上の2行のところにポイントを書いておりますが、現状の姿ではこの地域は、おとなしい、それから慎重である、人情に厚い、協調性がある、こんな項目が高くなっております。それから逆に、今後そうなりたいということに関しては、積極性がある、向上意欲がある、チャレンジ精神がある、責任感がある、こういうものが高いパーセントを占めております。それぞれ今申し上げましたどういうところが高くなっているかは、9ページと10ページを上から見ていただければ高い順に並べてあります。ただ、ここで注目するのは、この棒グラフが小さいからといって、総体的に特徴として小さくとらえていいということではありませんで、やはり8市町村の方にそれぞれ伺っておりますので、その地域性が非常に特化している項目については、数字としては小さいパーセントになるということもございます。ですから、グラフの小さいものも同じように大事にしていかなければならないのではないかと思います。

次の11ページにまいります。優れている地域資源でございますが、ここでは他地域に比べて優れていると考えられているものを伺ってみますと、これは3月にやりました事前の調査でも大体の傾向が出たんですが、さらに花火と信濃川の河川、これは非常に高い率を示しました。ほか続きます米、米作、それから米百俵の精神、酒造、山岳と平野の変化に富んだ自然と、こういったものが上位、高い、優れた地域資源ということでお答えになっております。

次の12ページですが、今度は大切な地域資源ということを知ってありますが、これにつきましても共通してやはり花火とか、信濃川とか挙がってきておりますが、先ほどの優れている地域資源に対して自分の思いとか、客観的に見る違いとかで、ランクが違っているものも見てとれるかと思えます。例えば大切な地域資源の中で上から七つ目ぐらいになりますが、教育施設、環境なんていうものはかなり大切だということでは上位に挙がってきたというふうに見れるかと思えます。

以上、この大切なものと優れたものをまとめて13ページに表示してみました。地域資源として現市町村別の上位項目を五つほど整理してみたわけでございます。これは、見方としては8市町村をそれぞれ分

けてパーセントを出しております。大切なものとすぐれているもの、これを分けておりますが、例えば長岡市の大切なものの中では花火、信濃川の河川、米百俵の精神などがあります。それから、花火については、ほかの市町村でもかなり上位に挙がっているということが見てとれます。また、優れている中では見附市の繊維工業とか、栃尾市でもやはり大切なところにも繊維工業が挙がっておりますが、この地域共通して二つ、三つ、四つと同じ項目が上がっているということが非常に特徴的ではないかと思えます。

それから最後に、14ページにこれらをまとめてみました。まず、地域住民の基本姿勢としては、地域への愛着が高く、現在の行政サービスに対する満足も一定でありまして、今後への期待も高いと言えます。それから、合併が生活に影響すると考えられる人は半数ぐらいに上ると。また、市町村の規模や雇用、住環境改善に対して立場性のはっきりした住民はまだ少なく、ニュートラルといえますが、余り偏った意見ではない状態にあるのではないかと見られます。

次の現在の地域認識、行政の施策の評価でございます。住民の皆さん、8市町村でそれぞれお答えありましたが、安全、安心で歴史のあるまちというのは多いです。それから、おとなしい、慎重である、人情に厚い、協調性がある、こういう共通の地域の認識を持っています。行政の施策についてですが、上下水道の集落排水施設の整備の充実、そして道路、橋、トンネルなどの整備、充実、ごみの回収・分別・リサイクル化など非常に具体的な答えが返っております。

それから、3番目の地域資源の評価ですが、住民にとって大切なものであって、他地域に比べて優れていると考えられる地域資源は花火、信濃川の河川、米、米百俵の精神、酒造、交通の利便性、山岳と平野の変化に富んだ自然、山や森の緑、各地の伝統行事、祭り、雪景色、それらが挙がっております。

ただ、各市町村別で見ますと、最も特徴的だったのは山古志村の結果でございます。この中では、先ほどの13ページにもありましたが、牛の角突き、コイの養殖、それから手掘り隧道、こういったものは山古志村ならではということで挙がっているのが特徴でございます。

最後でございますが、合併新市のイメージと重要施策について提示しております。住民の多くは、新市において働きやすく、高福祉で安全、安心のまちを望んでいると。同時に、向上意欲、チャレンジ精神、責任感を持って積極性があると、そういう地域でありたいと思っておられるようです。今後のことでございますが、今後重要となる行政の施策に対しては、地域医療体制の整備、充実と高度化、これ先ほど上の方で述べましたが、もろもろの行政施策についての要望がございます。また、さらに加えて老人や障害者に対する在宅サービスの充実とか、プライバシーや個人情報保護などについても重要な行政施策ということで挙げてございます。

以上が、簡単でございますが、アンケート調査の中間報告ということでご報告いたしました。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

14ページにわたります調査結果のまとめでございますけれど、この状況につきまして何かご質問等が

ありましたらご意見していただきたいと思います。どなたでも結構でございます。何でも結構です。

委員（山本 俊一）

ちょっと聞き逃したかもしれないのですが、5月9日の回収率61.8%のものについてはいつごろ集計が  
出ますか。

コンサルタント（岡村）

本日中間報告ということなんですけど、最終報告で、次の5月30日の小委員会で報告させていただき  
たいと思います。分析もまだ途中の部分でございますので、今後ぜひ分析も含めてご報告させていただ  
きます。

委員長（豊口 協）

ほかにございせんか。

お願いいたします。

委員（野田 幹男）

ただいまご説明をいただいた14ページの一番最後の合併新市のイメージと重要施策、これについて今  
説明があったわけでありますが、私はどれも非常に重要な問題であると思ひますし、やはりアンケート  
の結果、皆さんすばらしい回答を寄せたなと思ひております。今後の新市の将来構想の中でこの辺をひ  
とつ生かしていただければ、それぞれの地域住民が満足する新市になっていくのではないかというふう  
に考えております。よろしくお願ひします。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。大きな課題が一つ提示されたような気がいたします。

ほかに。よろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それでは、続けて次に移らせていただきまして、後ほどまた何かございましたらお願ひしたいと思ひ  
ます。

それでは、2番目にございすまちづくりワークショップの進捗状況につきまして、事務局の方から  
説明をお願ひいたします。

事務局（竹見）

続けて私からご説明をさせていただきます。

資料ナンバーの方で2の方をご覧ください。まちづくりワークショップメンバーリスト（グループ別）  
というふうに書いております。まちづくりワークショップは、4月17日に第1回目を開催いたしました。

メンバーは50名で、こちらの資料ナンバー2に書いてございすように7グループに分かれまして検  
討をしまひりました。こちらに書いてございすように、グループごとに長岡市とか見附市全部ばら  
ばらになりまして、グループはメンバーがくじを引きながらやってきたということす。開催状況につ



きましては、こちらの表の右から2番目の欄にございますように全体が4月17日とか、5月2日、それから5月13日、それから最終日が5月21日を予定しております。ほかにグループで自主的に行ったりしているところがございます、例えば1グループですと、今後5月18日に予定されております。それから、2グループが5月19日、それから5のグループが5月19日に予定されているということになっております。ワークショップは、合併するとしたらどんなまちになって欲しいとか、どういう地域にしたいかということをお各グループで自由に討議をしていくということになっております。自由な意見交換というか、私どもも行きましたが、非常に和気あいあいとした雰囲気の中で3回開催をされております。本日は、ビデオをご用意しておりますので、ビデオをご覧になっていただきながら、ワークショップの様子をコーディネーターの小疇さんの方からご説明をしていただきます。

小疇コーディネーター

こんばんは、ワークショップのお手伝いをしております小疇と申します。

最初に、ワークショップの模様、これまで3回やりましたが、ビデオをご覧いただきまして、その後、内容につきまして少しご説明をしたいと思います。

お手元にありますように、全部で七つのグループに分かれて話し合いを進めました。

ビデオ視聴

小疇コーディネーター

ワークショップの開催前には、こうやってスタッフが集まりまして、今日の会議をどうやって進めようかということをお約2時間かけてミーティングをやっております。

ビデオ視聴

小疇コーディネーター

ちょっと音が聞き苦しくて申し訳ありませんでした。

このように今回は抽選という形でグループ分けをしまして、グループは最初から最後まで固定をするという形にいたしました。最初の会合のときは大変堅苦しい雰囲気でありまして、ちょうどこの小委員会のような雰囲気だったわけですが、いろんなゲームをやったり、それから各グループで自己紹介ゲームをやったりすることによって非常に打ち解けた雰囲気になりまして、ご覧のように大きな笑いが出てくるという楽しいワークショップになってまいりました。

さらには、各回ごとに最後にふりかえりシートというものを書きいただきました。お手元に前2回のワークショップのかわら版というのがお届けしてありますが、かわら版の左側にありますように今日気づいたこと、今日うれしく思ったこと、満足したこと、さらに不満に思ったこと、悲しかったこと、言い残したこと、その他と皆さんにお書きいただいて、特に不満に思ったこと、悲しかったことについては次の回の最初に全てお話をしまして、出来るだけ各回ごとにそれを解決していくという形をとりました。最初は、特に時間が足りないというご意見が随分出ましたので、2回目、3回目につきましては各グループの発表タイムというものをやめまして、全部話し合いの時間に振り替えるという形にいたし

ました。

それから、最初に事務局からの説明がありましたように、時間が足りないということに対しては各グループで決められた日の中間に自主的に集まってくださいという形で会議を進めまして、2グループでは全4回予定したものに対して全体で6回の会合をやるというような感じで、大変自主的に活動をしていただいております。1回目、2回目の内容につきましては、かわら版の概要をご覧いただきたいと思いますが、先日13日に行われました第3回ではこの話し合いがさらに深まりまして、例えば1班では枠というのが一つキーワードじゃないか。枠については、取り除きたい枠というものと残したい枠というものがあるんじゃないかと。最終回、それから途中でもう一回やりますので、そこでさらにその枠ということについてじっくりまた考えたいという話が出ておりました。

それから、第5班では、「わ」というものを考えたい。「わ」というのは、輪っかの「わ」、リングという「わ」もありますし、童話の話という「わ」もありますし、それから我という「わ」もあるし、それから冠という「わ」もあるだろう。そういう「わ」というものをキーワードにしながら、さらに地域、こんなまちにしたいというものを掘り下げていきたいという話も出ておりました。

それから、1回目、2回目でやはり出ましたのは、このワークショップの結果が本当に生かされるのか、どこでどんな形で生かされるんだと、そういうお話が出ました。それに対しましては、ワークショップの結果は包み隠さず全て小委員会に挙げると。小委員会の中で、その結果について十分もんでいただくと。その中から取り上げられるものを十分吟味していただいて、練り上げていただくという形でご説明をしております。

今回やってみまして、3回終わりましたが、これまでのワークショップですと、大体定時、9時になりますと、8時50分ごろからもうそそくさとふりかえりシートを書き始めて、終わる前から立ち上がる方がおられたわけですが、今回9時になってもなかなか皆さんお帰りにならないという状況で話が大変弾んでおります。次回、5月21日が最終回であります、最終回は話し合いの後全体発表会をやります。

発表されたものを全員で吟味をいたしまして、そこに自分の気に入ったところにシールを張ってシール投票してみようと。その中でワークショップの全体の総意というものが浮かび上がってくるのではないかと、そのように期待をしております。まだ中間段階ですので、結論めいた話を今日はお話出来ませんが、大体の雰囲気はおわかりいただけたのではないかと思います。

以上です。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。今ビデオを通して非常に臨場感ある現場の状況を見せていただきました。ここで議論された内容については、すべて小委員会に伝えられて、小委員会ですらにその内容について議論して、最終的な方向へベクトルをつける、こういう課題が出てまいりました。小委員会の重要性が改めて認識されたわけなんですけども、今ビデオ、それから事務局の報告を聞かれまして、何かご意見、ご質問等がありましたらどうぞお述べください。何でも結構でございますが、ご感想でも結構

であります。

はい。

委員（小池 進）

三島町の小池です。大変和やかな雰囲気で自分の思うことをそのまま出しておられる姿を拝見いたしました。なかなかこういう催し物というのは非常にためになるなという感じがしました。

その中でかわら版を見せていただきまして、どのグループも共通して考えているのは、やっぱりそれぞれの市町村の持つ個性とか、そういうものを大事にしていこうと。そして、よいものがたくさんあるんだと。本当にその内容が少し違っていても、何かそこにパッチワーク的な、全体の違いを尊重しながらバランスのとれた、しかも全体として美しいまちを求めているような気がして、自分たちのエゴは余り出さないで、お互いの立場を理解しながらやっていこうじゃないかという、そういう雰囲気を感じました。非常にすばらしいなと、こう思ったわけです。私なんかも、みんなこの市町村もそれぞれの役割などを考えてみますと、何か13市町村の長岡地域の事務局が考えたんですかね、それぞれの役割みたいな前にデータいただいたことありますが、みんな豊かな自然を出しているけど、どこがどう違うのかなと。みんな違うはずなんです。

栃尾には、道院から守門のすばらしい大自然がございます。また、小国には頸城山海の入り口にあって、それぞれ体験できるような、そういうある意味では手を加えた自然もございます。私どものところは余り手を加えていないんですけども、蓮花寺の大杉を象徴しているように、すごい杉林になって、今では花粉症の元凶なんて言われているんですけども、これはやっぱり市民としても大事な現況の資源になりますし、さらに余り見られていなかった長岡の雪国植物園は30町歩あるわけです。その北西にずっと広がる、西山町につながる200町ぐらいのすばらしい昔は松の美林だったんです。みんな松くい虫にやられて無残な姿ですけども、しかしよく見てみますと、ここには春には貴重なギフチョウが舞っていたり、あるいはウスバシロチョウのような氷河時代の蝶を見つけることもできます。そういう自然があるわけです。いわゆるコナラというブナ科の植物ですけども、そういうコナラの一種の樹林帯といますか、そういうものが荒れてはいますけど、いろいろ整備すると、すごい財産だなと、こう思っているんですが、そういうようなことを考えると、それぞれの自然の特徴というものがある。それをどう生かすかということ、これがやっぱりパッチワーク的な全体の調和と統一のとれたまちづくりができるんじゃないかなというふうに今拝見しておりました。いろんなものを張りつけて、そしてみんなで眺めている姿なんていいなと思いました。

以上です。

委員長（豊口 協）

どうもいろいろご意見ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

はい。

委員（北村 公）

栃尾の北村でございます。第1回目のワークショップのときに、質問も含めてなんですけども、ワークショップの進め方のところに、参加者の中からお膳立てが出来ていて、参加者は利用されているだけだという不満が出たと書いてあるわけですが、その後に参加者自身が決めて進めていこうというようなことで話がまとまっているような形ですが、第2回目はどういうふうな感じになったのかなということちょっと聞きたいですし、どの程度例えば今の任意協議会の進捗状況とか、そういうのをワークショップの参加者の方々に説明してあるのか。私もこの参加者の中に個人的に知っている人おられますけども、かなりベテランの方もおられます。ワークショップはワークショップでやっていただくのは、それは新しい将来構想ですのでやるのはいいんですけども、ある程度今の現状を我々がここでやっていることと並びに任意協議会の中の会議の中でやっていることも踏まえて、ワークショップをやっていた方がもっとより充実したものになるんじゃないかなというふうに思います。それとお膳立てができていてという言葉がちょっと引っ掛かるので、どんな感じなのかなというふうに思いました。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。1回と2回とのつなぎの問題と、それからほかのワークショップ以外の小委員会、それから全体の委員会の情報がどのくらいグループディスカッションのメンバーのワークショップに伝わっているかと、その辺のご質問だったと思いますけど、よろしくお願いします。

コンサル（小疇）

第1回のかかわら版の右下に書いてあります、時間が足りない、お膳立てが出来ていて参加者は利用されているだけだというのは、これまでのワークショップにそういう不満が多かったということが書いてありまして、そういう不満を出来るだけなくするために、今回は合併するとしたらこんなまちにしたいという目標だけを定めて、それに行き着くやり方はみんなグループごとに考えよう、そういう話し方だったわけです。それから、時間についても、時間が足りなければ決められた会の中にグループごとに集まって話し合いいただきたいと。あるいは、始まる時間を少し早めてお話し合いいただきたい。そういうことによって、時間が足りないことをグループ内で解決していただきたい、そういうお話をいたしました。そういう形なものですから、第1回目のワークショップというのは、ほとんどがどうやってこれから残り3回のワークショップを進めて目標を達成しようかという、そういう作戦を立てたワークショップに終始いたしました。ただ、それだけではなかなか話が進まないということで、具体的な話も第1回からたくさん出たという次第です。

それから、どういうことが今行われているか、説明されたかということについては事務局の方からになります。

事務局（竹見）

ワークショップのメンバーの方々には、こちらの方で調査しています現況調査とか、それから240名の方の住民アンケート、その調査結果といいますが、そういったものについて1部ずつお配りさせていた

だいたり、それから協議会だよりが出ておりますけども、そういったものもお配りしていただいております。ただ、人数が足りないということで、私も入ってくれということで、2班の方にちょっと入った中でお話を聞いたところ非常に勉強されておまして、第5班なんですが地域自治組織といいますか、そういったこともちょっと教えてくれないかとか、それから例えば8市町村が一緒になったら、基幹産業といいますか、それはどういうものになるんですかねと言われてましたけど、非常に今難しいそういった問題についてこちらの方で資料を用意させていただいたりして、そういったものについてはこちらの方にある資料をご説明、ご提示させていただいたりした中でご理解をいただいているような、そういう状況です。

以上です。

事務局（北谷）

よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい。

事務局（北谷）

もう一度言いますけども、お膳立てが出来ていて参加者は利用されているだけだというのは、今回の我々のワークショップではなくて、今まで同じような住民の方々を集めてワークショップをしたときに結構こういう傾向がある。ワークショップがあつて、せっかく集まっていた住民の方からこういう不満が出たというケースが多かったということで、今回の我々の場合はこうだったということではありません。

それと、ワークショップに参加いただいているの方々には、今担当が説明したように協議会だよりとか、そういったもので情報の提供しております。それで、ご質問があれば私もいろいろ質問を受けて、そのつど回答をさせていただいております。結構ワークショップの参加されている方でも、勉強されている方もいるなというふうに関心をした方もしております。

以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

北村さんよろしいですか。

委員（北村 公）

はい。

委員長（豊口 協）

ほかにどうぞ。よろしいですか。

事務局（竹見）

事務局の方から資料ナンバー2の一番最後をちょっとご覧になっていただきたいと思いますんですけど、先ほど

の5月21日が第4回ワークショップということで最終回になります。各グループが今までの成果を1グループずつ発表するというようになっておりますので、こちらにいる委員の皆様にご案内申し上げたいんですけど、ぜひご都合のつく方はご見学をしていただきたいなというふうに思いましてご案内申し上げます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

5月21日、水曜日、19時から21時まで、場所はこの会場でございます。

どうぞ。

委員（朝日由香）

最終回で出来上がってくる、各グループから出てくる将来のビジョンというか、まちづくりに対する自分たちの将来のイメージで出来上がってくるもの、統一広報というか、そういうものが指定されているのか。それとも、全く各グループ単位で、例えばここの中でもそれぞれ話し合って提案とか違うと思うんですけども、最終的な出来上がり、何か統一されて出てくるのか。それとも、本当にグループ単位のもので出てくるのか、その辺ちょっとお聞きしたいんですけど。

委員長（豊口 協）

21日の発表の内容がどういうものであるかということのご質問です。

小疇コーディネーター

完全にグループごとにやるという形で、統一した方がだとか、そういうのは全く聞いておりません。

それから、各回で発表会も今回設けておりませんので、各グループでどういうことやっているかについては、ワークショップの合間合間で皆さんの部屋を回っているんなところをのぞき込んだり、話を聞いたりするというぐらいの情報しか入っていないという状況であります。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。

委員（朝日由香）

はい。

委員長（豊口 協）

ということですから、ぜひとも21日にお時間がある方はこの部屋にお集まりいただいて、聞いていただければと思います。どうもありがとうございました。

それでは、3番目の有識者ヒアリングの調査進捗状況について事務局からご報告をお願いします。

事務局（竹見）

続けて、私からご説明をさせていただきます。簡潔に申し上げます。

資料番号の3をごらんください。有識者ヒアリング調査中間報告ということです。

1枚めくっていただきますと、取材対象者と取材日時という表がございます。左の方から地域、それ

から氏名、それから有識者のプロフィール、取材日時ということで記載をされております。地域在住者の地域内の方々につきましては上段の11名の方々です。それから、地域外で著名な活躍をされている長岡地域の出身の方につきましては、下の方の石積様から4名の方に有識者としてのヒアリングをさせていただいているということです。

進捗状況でございますけれども、まず地域在住者の11名の方はすべて終わっております。それから、地域出身の有識者の方々につきましては3名終わっておりまして、林家こん平様に5月22日にヒアリングをさせていただくということで、当初より1名増だということになっております。

それで、取材項目につきましては前回の小委員会の方でご説明させていただきましたように、8市町村の現状とか、それから合併に対して期待することとか、懸念することとか、それから8市町村の今後のあり方について討論を中心に個人的なご意見なんかも含めまして、自由にご意見を頂戴させていただいたというような状況になっております。大体1時間程度ヒアリングの時間をとって、コンサルタントの方から直接有識者の方に出向いたり、役場の方で取材をさせていただいたということでありまして。

以下、2ページ以降は内容別に取りまとめておりますけれども、こちらにつきましてはコンサルタントの方から説明をさせていただきます。

#### コンサルタント（岡村）

引き続き説明をさせていただきます。内容は6ページまでございますが、2ページ、3ページが地域の認識について、それから4ページからが今後への期待と懸念について、5ページの下の方から最後、合併についてということでまとめさせていただいております。

まず、2ページですが、地域の認識についてですが、結論的には長岡を中心とする経済生活圏としての認識が各有識者の皆さん共通でお持ちでございました。例えば7割近くが長岡以外から見れば通勤で通っているとか、長岡との結びつきが一番強いとか、経済生活圏としても一緒であると、そんなご認識がございました。

の現状評価ですが、共通のものとしては非常に現状に対してまじめにといいますか、真摯にお考えでございまして、中には大変厳しいご意見も入っていたかと思っております。ここに触れておりますのは、現状ではNPO法人の数の少なさにあらわれているように民間の活動、主体的な活動の土壌が余りないのではないかというようなご意見もありました。それから、行政と住民の役割分担、関係を明確にして今後のあり方を検討する必要があるのではないかというふうなご意見もありました。各市町村別で、ポイントですが、長岡では工業の衰退を懸念されておりまして、国際競争力におくれているのではないかと、NC化への取り組みがおくれていると、そんなご意見もありました。また、市内の大手通の人通りの少なさなんかについても非常に感じるようなところがございます。見附については、織物産業は厳しい環境であると。地域活性化への住民の自主的な動きも同時にあるんだということもございます。栃尾については、30年前から織物産業、農業が衰退をしているけれども、新しい動きとしては繊維産業の高級品で勝負しようという動きもあります。共通するものとしては、独自の地域資源があるというこ

とで、それを生かすことが大切であるというふうにおっしゃっています。別な言い方をすれば、自然や文化を生かした産業やまちづくりは十分可能であるというふうなご認識でございます。例えば雪、温泉、観光価値、それから豊かな水、きれいな土と水と、その辺のものを挙げております。また、恵まれた道路と交通網ということもありまして、さらに教育環境、教育的な歴史史跡とすぐれた郷土文化と、こういうふうな共通の地域資源に対する認識があります。それぞれですが、長岡では例えば人材力、技術力は十分あるんだと。それを生かす取り組みが必要であるとか、見附では繊維産業における町民の自主的努力と活動があるんだということ、それから栃尾でも食品加工、織物とか、手まりなどいろいろなものがある。中之島では、基盤としている一町田園化の促進というふうなことも挙げております。越路では多様な産業、優秀な人材とともに存在して、例えば天然ガスなんか大きな資産であるというようなこととございます。山古志は、雪解けのいろいろな時期の山菜、食品、錦鯉の生産とか、いろいろございます。自然環境を生かしたということで、ここにありますが、観光資源として牛の角突き、錦鯉、中山隧道、棚田の米及び風景と、そういったものは守っていきたいということとございます。小国については、高齢化への取り組みというものについて非常に先進的であるというご認識でございます。

4 ページにまいります。今後への期待と懸念ということとあります。まず、共通のものとしては、新市への期待と懸念として、まずソフト、ハードを一つに結集して大きなパワーにするということ。学ぶ、つくる、そういうものを目的とする観光開発なども可能なのではないかと。また、物や価値を生む産業を育てたいということも言っております。産学協同の県央中核都市なんだということと、住む人に優しく、来る人に優しいヒューマンシティと、そういうふうなイメージをお持ちでございます。老人の住みやすい元気になるまちになって欲しいというご意見もございました。それから、8市町村が相互の交流拡大を期待するということでもおっしゃっております。それから、内部で競うのではなくて、むしろ他の地域と競う気持ちで合併すべきだと、そういう前向きのご意見もございます。さらに、住民サービスの低下、地域の行政施設、体制の弱体化を恐れる懸念というのもございました。

の地域別の期待と懸念の中では、長岡では工業都市の発展を挙げておりますが、さらにコンベンション・エグジビション都市として、それをキーとする活性化の可能性ということも挙げております。見附では、重要テーマは福祉と教育なんだということをおっしゃっておりまして、老人福祉は民間活用も必要だと。栃尾では衣食住と、さらに観光で特色づくりをしたいということで、それぞれの具体的な内容を挙げております。食文化、食の産業興しを期待したいということが強いお考えでもありました。中之島の方では、農業基盤整備事業の継続ということも挙げておりまして、市の助成体制も含めて積極的な支援も必要であると。また、越路では地域の伝統や文化財を大切にしたいと。キーワードとしては、きれいで豊かな水、便利で安全なまちと生き生き女性、そんなことを挙げております。三島でございますが、ページをめくりまして、教育と住宅環境の整備を挙げておりまして、長岡市と川西地区との一体的な発展を期待してということとございます。山古志では独特の文化、自然の価値を尊重するということと、先ほども触れましたが、食品、農産加工開発、水生植物の養殖販売と、そういうもの



を挙げております。小国におきましては、自然環境を生かすということを挙げておりまして、グリーンツーリズムですとか、グリーンリース田園、田んぼなどいろいろなアイデアがございます。

その他としましては、今後のあり方について、まず独自性を持ったまちのデザインが必要であるというようなこと、それから行政の自治とか住民の自治の尊重ということを挙げております。同じようなことで住民の主導、自主的な活動を生み出していく必要があるということ。そして、今後のまちづくりのポイントとしても、今挙げましたように自主性とか、人を大切にとか、まず行動と、そんなキーワードを挙げております。何かを見つけないかということで、いずれにしろ住民自身が価値観や自然の物差しをきちんと持つ必要があるというご意見です。福祉の問題では、老人ホームなど福祉の充実は必要であると。必須であると。それから、教育問題でも産業人材の育成教育を行うべきだという今後のあり方についてのご意見です。

最後に、合併について伺いましたが、合併の動きについての認識でございますが、例えば職員数の削減ですとか、議員の定数問題など解決すべき課題も多いと。それから、合併は必要だと思うが、説明がまだ十分ではないのではないかとのご意見もありました。最後の6ページですが、さらに行政のスピードと住民感覚を一致させる必要があるのではないかと。それから、合併のことをまだ知らない人も多いのではないかと、そういうご意見もありました。

合併に対する懸念としては、行政のあり方を真剣に考える切実な人の声を反映するというところで、合併とその後のことを考えて欲しいと。それから、歴史的な価値を保存するというところで、行政文書とか古文書を確実に保存して欲しいと。また、伝統あるまちの名前や地名を残して欲しいと。そして、懸念のもう一つとして、地域と連携した学校教育、人づくり体制の弱体化、行政サービスの低下や負担の増大などを挙げております。また、合併に際して市町村ごとの違い、格差をうまく調整していく必要がありますと。さらに、きめ細かな行政サービスをお願いしたい。また、長岡市の問題でありますと、長岡市とその他の自然環境や条件の違いを十分踏まえて今後の市政運営をして欲しいと。長岡以外では、単なる周辺部としてだんだん人が少なくなる事態を恐れているというふうなこともあります。

番のその他合併に際しての意見でございますが、10年後を見据えた視点でどういうまちをつくるかを考えていく必要があると。また、前向き、チャレンジのスタンスが大切であると。それから、真ん中あたりですが、一人一人、地域、地域がしっかりしつつ、協働でもっといいものをつくり出していく努力が必要であると。ロマンがある合併を望みたいと。そして、地域づくりは難しいが、スポーツ、芸術や子供などを通じた自然なコミュニティ形成が進めばいいと思うと。集落単位でのコミュニティ形成、自治が重要になってくると。最後ですが、何ができるかを探して何もしないのでなくて、何をするかを考えてつくり出すべきではないか、そのようなご意見がありました。

幾つかポイントをかいつまんで申し上げました。

以上でございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

非常にクオリティーの高いご意見たくさんいただいております、特に地域内外で活躍をされておられる有識者の方々の非常に現実的な論点をたくさんいただきました。

以上の報告につきまして何かご質問、ご意見ありましたらお受けしたいと。

はい。

委員（米持昭次）

確かに有識者の皆さん方のご意見でございます、大変立派なご意見が多いと思います。と同時に、大体の意見が出ているかなという感じもするわけですが、一つお聞きしたいのは、3ページでございますけれども、地域資源の関係でございますが、三島町がここに出ていないんでございますけれども、三島町の代表者の方は資源がないとおっしゃったんでしょうか。先ほどうちの小池委員の方からも三島町もいい資源があるというお話があったわけですが、その辺はどうだったでしょう。

委員長（豊口 協）

お願いいたします。

コンサル（岡村）

私インタビューさせていただいたんですが、共通の中に教育環境、教育的、歴史的というのが一番下の項目にあります、教育、それから住宅等についてむしろ地域資源というよりは今の基盤を将来に生かしたいという、そういう視点でのご意見があったということで、これはさまざまご意見を伺った中で今こういうふうにとまとめたものですので、将来の方のところにはそういうふうな形で出たりしております。必ずしもこの地域資源はどうでしょうかというふうな形で浮かび上がったものではないので、そういう意見もいただいております。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。

委員（米持昭次）

はい、やっぱり抜けたような感じがしないでもないですが。

委員長（豊口 協）

ほかにどうぞ。

お願いいたします。

委員（熊倉 幸男）

今地域資源の話が出ましたけれども、実はここに私どもの方に地下資源は大きな資産であるというふうに今回も挙げてあるようでございますが、一方ではアンケート調査には全く出てまいりませんでして、皆さんがわからないということですので、逆に考えればこういうものがあるんだということを知らせるために、ぜひこういうものを挙げていただきたいと思っているわけです。と申しますのは、越路原という丘陵があるものでございますけれども、そこでは昭和36年ごろでしょうか、片貝地区の方から始まっ

たんですけれども、クリーンなガスが出まして、当時は30年ぐらいもつであろうと言われたのが、もう40年以上もっております。さらに、私ども地域の中でも昭和50年ごろから始まったんですが、それが今後とも三、四十年はもつであろうと、こういうふうなことでございますので、特に地下資源の少ない我が国にとって、ここにすばらしい資源があるということをぜひ皆さんから知っていただくためにも載せていただきたい、こう考えております。特に私どもの方の町も今ちょっと考えているんですけれども、そういうクリーンなエネルギーを使った車の導入、そういうものも考えておるわけですが、環境に優しい窒素酸化物なんかかなり少ないわけですが、そういうものを将来例えばこの地域にそういう車を導入していくというようなことも考えてもいいのではないかな、こう思っておりますので、ぜひひとつ挙げていただきたいと、こう思っています。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。大変貴重なご意見だと思います。これは、今その地域に住んでおられる方たちの燃料はこれで全部賄っているのですか。

委員（熊倉 幸男）

そうです、私どもの町は全町ガスであります。

委員長（豊口 協）

越路の石黒さん。

委員（石黒貞夫）

懸念されることをお聞きしたいんですが、まず資料ナンバー1 1の設問3、ページ数でいくと5ページ、その表と、それから資料ナンバー3、その下の方の合併への動きの認識、これを比較しますと、まず設問3の方ではどちらとも言えない、それとやや右に近いというのをプラスしますと、圧倒的に左に近いより多いわけです。特にどちらとも言えないというのが非常に私は懸念します。そして、資料ナンバー3の合併への動きの認識の中で、2番目になっています、合併は必要だと思うが、説明が十分じゃない、その辺が何か共通する点があるのではないか。私自身も町内あるいは各集落に行って、時折というよりも幾度となく合併の話は出るんですけど、あなた方、こういうのに関心はあるんだろうけども、知っているんですかと言うと、知らない。じゃ、住民懇談会に出ているんですかと。出て行ってもわからない。また、出て行かない人が多いんです。それは、どうせもう合併するんだろうと。じゃ、細かいこと聞く必要はない。そういうことを言われると困るんだ。どうせ合併するんだろうといても、あなた方が決めることなんですよ。私どもは、ただ橋渡しをするだけなんですから、だから意見を聞かせてくださいと言うんですけど、なかなか勉強もしていないというか、資料を配っても見ないというか、さらには任意協議会から出ている新聞、これも見ていないんです。ごみ出しなんていうと、これはかなり出ているんです。雑誌とか、そういうのと一緒になって出ているんです。だから、そういうことを各地域の方々がどのように把握しておられるのか。こんなことで、私どもは本当に各地域の選ばれたというか、代表として話をどんどん、どんどん進めていっていいのだろうか。何か地域の住民を袖にして進ん

でいるんじゃないか、そんなことをごく最近になって私痛感している一人なんですけれど、同僚にそんな話をすると、やっぱり同じようなことを最近になって感じているとか。だから、もう一度やはり地域住民とひざを突き合わせて、もっともっと話をしておかなきゃならんことがいっぱいあるんじゃないか。

同時に、これ任意協議会のことを申し上げて恐縮なんですけど、私も任意協議会出ておりますと、何か細かいことで、重要なこと、大切なことがあるんですが、それはみんな後回し。この7月で中間報告というか最終報告が出れば、あとはもう法定協議会に入れればいいんだから、その後緩やかに、うちの越路の町長が緩やかな合併をというようなことをおっしゃっておられたんですけど、緩やかがどこまで、何年なのかわかりませんが、5年、10年、その中でいろんな細かくて、しかも大切なことを合併してから話をして、よかったではいいんですけども、だめだったということになるといって、これは大変なことになるんです。従いまして、その辺をもう一度やはり後ろを振り返りながら進む、これが大切じゃないか、そんなふうに私は思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

実は、今三つの報告事項を議論していただきましたが、これが終わりました後、自由にご発言をいただく時間が用意されています。その中で今のようなご意見を出していただきながら、全体のあり方をもう一度確認していきたいと思っています。ありがとうございました。

今までの3項目、報告事項につきまして何かご質問、ご意見ありましたら。よろしいでしょうか。

「なし」という声あり

委員長（豊口 協）

それじゃ、今用意されました第1の関門について、それぞれの進捗状況につきましては以上で終わりにさせていただきます。

事務局（竹見）

委員長、もう一回よろしいでしょうか。

委員長（豊口 協）

はい。

事務局（竹見）

有識者ヒアリングをご説明させていただきますけども、今後も多くの人の意見を聞くという一環の中で構成市町村の首長、それから議会代表者からまた同じような取材調査を行わせていただくような形になっております。実施方法としましては、8市町村の市町村長様、それから議会代表者様、この8市町村の合計が計16名の方に対しまして、またインタビュー調査を約1時間程度実施させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員長（豊口 協）

事務局としては、非常に細かい配慮をしながら少しずつ着実に進めていきたいと、こういうことだと

思います。

それじゃ、次の具体的なテーマにつきましてこれからご意見をいただきますけども、いきなり具体的なテーマと言いましたが、これをご覧になってください。これからは、少し袴もを脱いでいただいて、ネクタイもぜひ緩めていただいて、ちょっと薄着になったおつもりで、ひとつご意見を重ねていただければありがたいと思います。用意されていますのが幾つかありますけれども、例えば市町村の現状について、今自分たちの住んでいるまちにどういう特徴があるのか。こういった非常にすばらしいものだというふうなことを今までの調査なんかを踏まえて、この小委員会のメンバーの個人的な意見としていただければありがたいと思います。そういう特徴及び自慢できるようなものをお互いに掘り出していって、今日確認出来ればというふうな感じでいたします。

最初に、8市町村の現状をベースにしたものですが、それから、もう一つは長岡地域の市町村合併に関しまして、こういうことを期待したいとか、こういうことはちょっと問題があるんじゃないとか、いろいろあると思いますが、そういった8市町村それぞれがこれから責任を持っていかなきゃいけないものとか、お互いに協力して一つにまとめていこうではないかと、そういういろいろなご意見もあるかと思いますが、それから、新しい市になったときに、こういうことはぜひともやらなきゃいけないんだと、これは絶対的な課題であるというふうなこともあろうかと思いますが、そういうことを含めましてご自由にひとつご意見いただきたいと思います。ひとつネクタイを緩めていただいて、袴もを脱いでいただいてお願いしたいと思います。

はい。

委員（山本 俊一）

報告中の関連のことをお願いやら、それからこれはどうなっているだろうとちょっとご質問させていただきたいんですが、第1点は私1回目のときに、これはどうなんだろうというふうに質問させていただいたんですが、新市の将来構想の中で、言ってみればアンケートで4,300人の方々からご意見いただいたと。それから、ワークショップが今度最終の日程が調整されている。有識者ヒアリング、そしてまた今事務局から首長だとか、議長に対してヒアリングを行いたいというのがあったわけですが、私が前にお話ししたように8市町村の総合計画があると。その総合計画というのは、既に住民代表みんなで参画してつくられた計画であるわけです。そして、それが既に今生きていて、その中に基本構想というのがあるわけです。だから、そういったものもやはり見直して、その中でこういった位置づけをやるのかというのも一つの大きな要素になり得るというふうに思って、一番最初にお話ししたとき、今将来的にはそれをやるんですというふうなお話はいただいたんですけども、その後そういうふうなものが具体的にどういうふうな形でやられるのかというのをちょっと知りたいということが1点。

それから、ワークショップの関係なんですが、先ほどまとめていただいている方から、参加者の意見の尊重というのは、それは当然非常に大切に、一生懸命やっただいていただいているわけですので、出来るだけそれは取り入れようというふうに私も思うんですが、ただまとめ方を誘導はしないと。それで、今の

を見ますと、なかなかそれがうまく入り込めるような形に、出来るだけ入れたいというふうな気持ちは私個人的には思うんですが、それがうまく入り込めるような形に少し難しいんじゃないかというふうな気持ちもありますんで、その辺あたり出来れば何とかこちらの方にうまく受けとめられるような形のものでまとめていただければ非常にありがたいというふうな点でございます。

委員長（豊口 協）

ありがとうございます。

2点ほどご質問がありますが、ご意見等、事務局、お願いいたします。

事務局（竹見）

まず総合計画ということで質問がございますけれども、当然これから新市の将来構想を策定していく中では、各地域の当然個性を生かしながら策定していく必要があるんじゃないかということで事務局としては考えております。それで、第1回目にご説明させていただいた今回の手法なんですけど、地域の思いとか、それから地域の資源とか、そういったものを十分に反映出来るような形で手法を提案させていただいたということでございます。それで、前回の幹事会でも説明をさせていただいたことでありますけれども、今後各市町村の担当、いわゆる各総合計画の担当とか、それから合併の窓口のご担当にもこれから説明会をさせていただきながら、今も各地域の資源とか、そういったものが出ておりますけども、それで各地域のまたそういった特性とか、それから訴求点とか、そういったものを抽出をしていたりした中で今後、じゃ何が出来るかということワークショップ形式で実施しようかと考えておりました、そういったものを含めて8市町村が一緒になったときにどういった方向が出て、それに基づいて各市町村がどういった資源とか特性を生かしながら、新しいまちづくりが出来るかということと一緒にまた考えていきたいということで考えておりますので、よろしくをお願いします。

それから、まちづくりワークショップを今行っておりますが、21日に7グループの発表を予定しているということでございますけれども、ワークショップのほかにもアンケート、それからこういった今回の有識者ヒアリング、それから首長さんのヒアリングも差し上げますけれども、本当にいろんな方々の思いとか、そういったお話もすごくいっぱい出てくると思うのです。それを、事務局とコンサルタントが一緒になりまして、地域の思いとか、そういったものがきちっと構想に反映するような形で考えておりますので、よろしくをお願いします。

委員長（豊口 協）

山本さん、いかがですか。再度ご質問ありますか。

委員（山本俊一）

ないです。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

ほかに。

お願いします。

委員（村上 雅紀）

トータルでご質問というか、ご意見させていただくのですが、一応この小委員会のまず存在的な部分がちょっとまだ見えない部分があると思うんですけども、有識者ヒアリングが挙がってきました。ワークショップからの提案が挙がってきました。7,000名の住民アンケートをしました。それはすべて小委員会に挙がってきて、それを基に新市の将来構想はこういう形にしたいというのをこの17名のメンバーで考えることが非常に大事なような気がするんですけども、何かこれだと承認機関であったり、決議機関であったり、そういう感じにもとれかねない部分がどうしても見えるんですけども、新市の将来構想としてこういうまちにつくりあげていきたいんですというのをこの小委員会の方でまとめるという形をとれば、そういう流れをとっていきたい部分というのがあるんですけども、その道筋がなかなか見えないというのが私はあると思うんです。ですから、住民アンケート、素晴らしい皆さんが一生懸命やったワークショップも挙がってくるし、それをここの土俵上でどう生かして、どう新市将来へ向けてつくりあげていくという、ここにいるメンバーがという部分がちょっと私見えない部分があるので、その辺一応考えがありますか。

委員長（豊口 協）

私が認識していますのは、今3回ですけども、次の委員会に最終的にやったアンケートがまとまりますが、それを受けて次の回からの小委員会にすべての責任が託されるわけです。ですから、毎月小委員会開かれることになっておりまして、今までは報告を受けた。実態調査の内容の報告を受けた。それから、現状はこうだということの把握もやれと言われて、やらなきゃいけない。そういうことは全部今ある程度見えてきたんですが、今度それをそれぞれの委員の方が咀嚼をして、新市はこうあるべきだということ今度具体的に議論していくという段階に入るわけです。ですから、今まではおっしゃるように何となく聞いて、そうかと思ってきたような感じでしたけども、4回以降はちょっとしんどくなると思います。それから、議論も激しくなると思います。それから、発言主体としての責任持たなきゃいけませんから、それをどう自分自身が責任持って行動に移すかという、そういうことも問われると思います。

最終的には、小委員会の責任が全ての将来に対する責任として問われてくるということですから、これから相当ベルトを締め直してやっていかなきゃいけないという感じがいたしております。これは私の個人的な考えですが、事務局いかがでしょうか。

委員（村上 雅紀）

私もぜひそうあって欲しいです。事務局任せやコンサルタント任せでなくて、やっぱりこの17名のメンバーの中で、決して諮問機関でもなく、決議機関でもないわけですから、その辺をもむ土俵上をつくらせていただきたいというのは、そのための資料ですし、これに対してどうこうというのではなくて、これをもとに我々はどう考えていくかというものをぜひとも出していきたいなということをお願いしたいと。

委員長（豊口 協）

ということで進めていくこととなりますが。

事務局（北谷）

もちろんそれで結構です。

委員長（豊口 協）

ということだそうです。村上委員、大変心強いご発言ありがとうございます。

本当に次から大変だと思います。今までは、さっきおっしゃったようにコンサルにお任せしてやっていたような感じでした。その集めた内容がちょっとおかしいとか、こういうことについても調べてほしいとか、こういうことが抜けているから、これやってくれというふうなことで済んできたのですが、これから先はそうはいきません。ですから、今まではご質問、ご意見と私伺っていますけれども、これから議論していく段階で、今までの資料で十分かどうかということも重ねてご検討いただければどうかと思っています。

はい。

委員（小池 進）

有識者の意見を聞いたり、ワークショップやったり、いろんなアンケートをまとめて、結果について、これはわかるんです。これも尊重してやらなきゃならんと思っています。ところで、私らは三島町だけなのかもしれませんが、有識者のたった一人の意向も尊重しますけれども、43名という委員の皆さんが4回ほど検討した内容を我々は8市町村の中でどういう役割をしたらいいのかということで真剣に討議してきたわけです。この討議を小委員会にやっぱり反映させながら、我々のこれからのあり方をこの8市町村の中でどういう立場でやっていくかということを確認していきたいと、こう考えて出てきているわけですが、なかなかその部分は変えられないのではないかと心配してきたんですが、ぜひこの小委員会でそういうものも取り上げていただきたい。そういうところがなければ、また委員の皆さんのそれこそいろんな高い立場で考えておられる方もおありかと思しますので、その意見を開陳していただいて、みんなでまた考えていくということも、ただデータだけでもって物を考えるだけでなく、今だってこの調査だけでなく、いろんな統計的な資料もいっぱいあるわけです。そういうものも駆使しながら、これからのあり方をぜひ考えていただきたい、こう思っています。

委員長（豊口 協）

今大変貴重なご意見いただきましたけども、今までのデータとか資料というのは小委員会の方々に一応共通の情報として出していると思います。これからは、それぞれの地域の代表の方がその地域で把握された情報があるわけですから、その内容をそこへぶつけていただいて、もう一回どろどろにかき混ぜて、そこから新しい、これほとんど拾い上げるんじゃないのですが、新市のあり方をそこから一つ一つ引き上げていくというふうな作業に入っていくんだろうと思います。ですから、先ほど申しあげましたように、これからは正念場ということになるかと思っています。



ご意見、あとございませんか。

お願いいたします。

委員（高野徳義）

山古志の高野です。このアンケート結果、優れている地域の資源は1番が花火だと。これは人口割合からいくとこういうのは当然かと思うんですが、先ほど村上さんからありましたように、ここに手掘り隧道1.7%、牛の角突き4.6%と非常に低いのですがあるんです。これも何百年も続いている牛の角突きという伝統なんです。人口比率でやってアンケートとるから、これはもう仕方のないことなんですけど、幸いにも7市町村の方々と同じ場所に立って発言させてもらうことができる。この小さなパーセントをぜひこの場でもって議論して、大事なのは取り上げていただきたいと、こう思います。よろしくお願ひします。

委員長（豊口 協）

これは、さっき事務局からもお話ありましたように人口で出すということでこういう数字が出るんであって、この数字はとにかく一遍チャラにして、削っていただいてもいいと思います。出てきたものはすべて同じレベルにのっかっているという、これからご判断をしていただいた方が私は適切ではないかという気がしております。私の個人的な見解です。これからは個人でどんどんご発言いただいて結構ですけど。

はい。

委員（北村 公）

8市町村合併の将来のイメージについてということで、これから4回目以降協議をしていくわけですけども、その立場です。前々回私が質問したときに、私が若干栃尾市の立場に立って話をしたら、やはり私長岡地域の一住民としての立場で意見を言っていたらいいんだと、この会はというふうに言われたような気がするんです。確かに新市の将来構想を考えるには自分の市、私だったら栃尾市ですけども、栃尾市の考えも踏まえた中でやはり新しい市の将来構想をしていかなきゃだめなんですけども、その辺の仕分けをしていかないと、何か議論がどうしても自分の市のことが常にイメージとしてあって、そこから意見を発言していくような状況になってくると、やはり私は自分も自戒しなきゃと思って再度確認して、やはり自分の市のことも大切ですけども、立場としてはそれを抜きにしてやるというような形で考えていかなきゃだめなのかなというふうに思いますし、その辺議論を展開していく上で、やはりきちっと仕分けしてやった方がいいのではないかというふうに思います。

委員長（豊口 協）

私は余り思わないんですけど、というのは将来どういう市になるかわかりませんが、市が生まれるとします。そのまちをどうしたいかという気持ちがあると思うんです。私は例えば市長になったときに、私は市長です、こういうまちをつくりたいんだというぐらいの立場でお考えいただきたい。自分が生まれ育ったのはこうこう、こういうところであると。そこにもこういう文化があるし、伝統もあるし、さ

まざまな人の心もあると。しかし、いろんな人が集まって新しい市をつくる時に、私は市長としてこういうまちをつくりたいというくらいのご発言になるんだろうと思います。それがこの小委員会のあり方だったんです。他人任せでこうしてほしいというふうな意見はここでは要らないと思うんです、はっきり言って。自分ならこうしたいと、こうするんだと、そういうことだと私は思っています、個人的に。

委員（北村 公）

私は、長岡の地域の中の一人の住民として発言していくべきではないかというふうに、そういうふうにしていかないとダメかと思います。

委員長（豊口 協）

ですから、長岡の一住民というよりも、地域の一住民じゃなくて、新しく生まれる地域の一住民ですね。

委員（北村 公）

そういうことです。

委員長（豊口 協）

はい。

委員（朝日 由香）

ちょっと確認なんですけども、ここのかわら版のところを見ると、小委員会の中ではまちづくりビジョンの検討、将来像、基本方針等というふうになっていまして、その下に新市将来構想策定の基本理念とか、各地域整備方針とか、各分野活動方針と、かなり具体的なものが出ていて、ここの委員会の中では各分野の活動方針、それを決めるらしいんですけど、それとも本当にビジョンといいますか、その部分を聞かせていただきののですが。

委員長（豊口 協）

出来れば、もっと具体的な言葉でお話し合いをした方がいいと思います。そうしないと、この小委員会の存続意義がないと思いますので、ですから趣旨を述べてください。お願いします。

委員（朝日由香）

であれば、一応希望なんですけど、ちょっと膨大な資料かもしれませんが、各市町村の今までの総合計画、最低でもダイジェスト版、そういったものをぜひいただきたいです。

委員長（豊口 協）

これ事務局いかがですか。用意できますか。

事務局（竹見）

はい、用意いたします。

委員長（豊口 協）

そうですか、ありがとうございます。

委員（朝日 由香）

それからもう一つ、これは個人的な意見なんですけど、有識者ヒアリングの意見の中に合併に対する懸念という項目で、合併に対する懸念の中の一番下の項目、合併新市が共通アイデンティティーを持ち得るかどうかは疑問という、そういう報告がここに出ているんです。私は職業上、今ここがとても重要だと正念場を迎えるところで、多分恐らくこの基本構想というか、将来のまちづくりのビジョンというのが本当に共通のアイデンティティーになるだろうかと思うんです。その共通のアイデンティティーの各政策の具体的なものは、相当後からいろいろ調整して話し合うことというのはとても有効で、出来ることだと思うんですが、本当に共通してお互いのこんなまちをつくっていかうというアイデンティティーが確立されないと、多分市民の方にもなかなか伝わっていかないだろうし、私たちこの委員会の中でも本当に各論部分ばかりの意見が出てきて、なかなかお互いにこんな方向で進んでいかうというところがやっぱり見えてこない。なんで、このアイデンティティーを持ち得るかどうかは疑問というふうに書いてあるのか、やっぱりこの委員会がアイデンティティーをつくるんだろうなというふうには、私はとてもすごく重要な責任を背負ってしまったなと今切実に実感しているところです。

委員長（豊口 協）

おっしゃるとおりだと思います。ですから、共通のキーワードが見つかるかどうかだと思います。そのキーワードを見つけなきゃいけないです。ですから、各論を幾らまぜこぜにしても五目飯みたいなもので、一体これ何だということになりますから、やっぱりキーワードを何かと。魚沼産のコシヒカリと、これだけで五目飯をつくれるわけですから、そのキーワードを見つけなきゃいけないと思っています。

何となくまた硬くなっちゃったんですけど、ネクタイ緩めてください。上着を脱いでいただいても結構です。あと15分しかありませんが、どうぞご発言ください。

お願いします。

委員（高野 徳義）

各地域のエゴをなるべく少なくというのは理解できるし、わかるんですが、山古志の近くに山古志から昔長岡の方に合併しました竹之高地というのがあります。でも、なくなりそうです。やっぱりそういうのを目の当たりにしていると、わずか人口2,000人がエゴを出すと言われても、やっぱり住民代表として私どものところへどうなんだ、どうなんだと聞きに来る。こう言ってくれ、ああ言ってくれと。それをここで出せないというのはわかりますけども、多少のやっぱり過疎でなくなるんじゃないかと、合併したら終わるんじゃないかという、そういう懸念がやっぱり強いもんだから、どうしてもその関係からそういう点は出ているわけなんですけども、きれいごとばかりではいけないと思うので、よろしくお願いします。

委員長（豊口 協）

何をもってエゴとするかということがあります。ですから、例えば絶対的という言葉というのは、絶対ということはありませんけども、この文化は今までは山古志の文化だったかもしれないけども、これは全地域の人々が認める文化的な価値があるもんだということになれば、これはエゴでも何でもなく

て全体の宝物なんです。ですから、そういうものを失くさないようにするのが合併の委員会の機能だと思っんです。ですから、失くしちゃうとか、つぶしちゃうとか、吸収するとか、そういう話じゃなくて、何を残して、何を一緒にして、さらに飛躍してすばらしいものにするかで、すべてを試算すると、それがX軸とY軸の第1象限の話になると。すべてをプラスの軸でもって議論していくということが一番重要だと思っんです。第2、第3、第4象限のものを議論していますと、これはうまく先へ進みませんから、やっぱり少なくともこの小委員会ではあらゆる条件のX軸とY軸に囲まれた第1象限、プラスのところを攻め立てていくというのが重要な課題だろうというふうな気がしておりますが。

どうぞ、ご議論をひとつ。

お願いいたします。

委員（野田 幹男）

小国町ですが、小国町は「人は元気、自然が薫る、小国町」ということでキャッチフレーズ持って今日まで来たわけでありましてけれども、最近ややもするとこの経済不況の中で元気が失われておるといのが偽らざる姿じゃないかというふうに考えて、それで本当に8市町村という広域の長岡新市が誕生するにあたっては、やはり活力のある、あるいはそれぞれの地域は伝統文化を持っておりますし、あるいはまた福祉だとか、高齢化社会の対応、あるいは少子高齢化の中でどうしていくかという、みんな問題が起こっております。それで、先ほどの見附の助役さんが言われたように、それぞれの市町村では総合計画なり将来構想を持っているわけでありまして、全部取り入れるわけにはいかないにしても競合しないような形で、それぞれの8市町村の独自性をやはり地域性を考えた中で新市の将来構想を練り上げなきゃならん。これは、言うはたやすいけれども、なかなか難しい大変な問題でありますけれども、それが我々に課せられた使命でありますし、また市町村民等しく、合併はしたが今までよりもよくなるのか、後退するのか、こういう懸念をお互いに持つておるわけでありまして、先ほども私が申し上げたように、この有識者ヒアリングの最後のまとめにありますように問題点が浮き彫りになっておりますので、それらを活力ある新市につなげていく中で、またそういう住民要望もどのようにそこに取り入れていくかと、これが一番大変なところだと、重要なところだと思いますから、委員長が言われるようにこの次から本格的な議論になるんだと、こういうことありますので、我々もまた心して次からの会議に臨んでまいりたい。事務局も、ぜひその辺をひとつキーワードにしながらやっていただきたいというふうに考えます。

以上であります。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。私も個人的には、人が歴史的にも積み重ねてきた文化というのがあるんですけど、その文化を否定するということはありません。それは、すべてお互いに認め合うということがこの条件だと思っんです。認め合った上で、それをさらに飛躍させるというか、持つていくためにはどうしたらいいか、それがここの委員会での議論する一つの鍵になってくると思っんです。です

から、否定するとか、消してしまうとか、失くすとか、そういうことはこの委員会には言葉としては存在しないというふうに私個人は思っております。

はい。

委員（北村 公）

第4回目からは、どういうふうな形でもって議論をやっていくか、そこだけお聞かせください。

委員長（豊口 協）

私まだわかりません。少し時間ください。

委員（北村 公）

もしできたら、問題点だけでも出した方がいいんでないかと。

委員長（豊口 協）

出来るだけ問題点を出した方がいいと思うんですが、出し切るとくたびれますから、そうすると少しずつ重ねようということになりませんか。

委員（北村 公）

なります。

委員長（豊口 協）

ですから、4回目からは本当に上着脱いでいただいて議論した方がいいような気がします。また、時にはつかみ合いのけんかしたって私は構わないと思っています。私けんか弱いですから、逃げますけど。

はい。

委員（北村 公）

総合計画をやはり一回見て議論した方がよろしいんじゃないでしょうか。それで違いがわかってくる、こう思います。

委員長（豊口 協）

ですから、事務局を通して、お手元にお渡しいたします。つぶさに読んでいただいて、ご理解をいただくといえますか、お願いをしたいと思います。

ほかにございませんか。

委員会でも、小委員会のメンバーとしてはここでの発言が一番重要でありまして、終わった後で友達にこぼしてもらっても、これは意味ありませんので、それだけはおやめいただきたいと、すべてここでご発言いただきたいと、こういうふうに思います。

よろしいですか。もしご意見がなければ第4回に期待いたしまして、第3回の委員会はこれで終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、事務局へお返しいたします。

事務局（竹見）

次回の小委員会ですけども、5月30日午後6時半からまたこちらの大会議室で行いますので、よろしくをお願いいたします。

委員（長谷川 孝）

よろしいですか。5月30日の小委員会、先ほどアンケートの集計は六十何%ですか、そのすべてを30日の小委員会までに集約できるんですか。

事務局（竹見）

そうです。今回の調査関係につきましては、30日に皆様方の方にご報告をさせていただきたいと思えます。

委員（長谷川 孝）

そうすると30日にしか私どもの手元に来ないということですね。

事務局（竹見）

いえ、事前にご送付させていただきたいと思えます。

委員（長谷川 孝）

それは30日の小委員会のときに役に立つわけですね。

事務局（竹見）

はい、そのとおり早く用意したいと。

事務局（大滝）

申しわけございません。6時半からと申し上げましたが、今日と同じように6時に夕食を用意いたしますので、6時までにおいでいただきたいと思えますので、よろしく申し上げます。

委員長（豊口 協）

それでは、どうもありがとうございます。小委員会を終わります。

済みません、20日の協議会にちょっと私どうしても出られない用がありまして、かわりに副委員長から報告していただきますので、よろしく申し上げます。

午後8時26分終了